

灼熱の地を開く

アフリカ支援の山陰人

5

フルキナファンの教育環境 初等教育への就学率は6割で、初等教育を修了するのは3割、中等教育に進む子どもは2割に満たない。教材不足で、授業は教科書をノートに書き写したり、教員の話す言葉を繰り返すなど暗記が中心。応用力や創造力が身に付きにくい。

三割に満たない。世界で最も教育が遅れていると、スカッションに取り組まされる国の一つで、豊田さんが、まず足を運んだのは小学校だった。三人で二冊の教科書。算数の授業では、教師が足し算の説明に、はじきや磁石の代わりに小石や瓶キャップを使っている。原爆を伝える写真や被爆者の声が寄せられたビデオを取り寄せ、今年一月に開催。会場の一角には千羽鶴を作るコーナーも用意した。当日訪れた百二十人の半数は歴史を勉強中の中高生。ノートを取りながら熱心に見入る姿があった。

た。日本とかけ離れた教育環境にあせんとし「どろうしたら、子どもたちの力になれるかと考えた。参加した青少年向けイベントは、夏休み中の子どもを集めて、歌やディ



テンコドゴ市内の小中学校で、子どもたちと話す豊田幸子さん。子どもたちの笑顔が仕事の励みだ

子どもたちの輪の中で

好きな言葉「サヴァアレ」

と、年齢制限ギリギリの評を博した。三十九歳で隊員に合格。「子どもたちのため」と、言葉の壁や体力的な厳しさをね返す。最近取り組んだのは、学校体育の準備体操の開発。ダンスの経験を生かし、現地の人気曲を取り入れ、激しい動作の体操をつくった。「フルキナ体操」と名付けて披露すると、子どもたちに大好

る姿があった。「戦争はとても悲しい」「平和は人生にとって素晴らしい」「平和のため」「サッカーの国際試合をしよう」。感想カードに並んだ国の将来を担う

が熱くなったという。大阪市の植物園に十年勤務しイベントの企画、運営に携わった。経験を返す。国際協力に生かしたい

フルキナファンは初等教育の就学率が六割で、成人の識字率に至っては

山陰ワイド

Sanin Sougou

総合

（本社報道部・佐野卓）
おわり